

なによりも患者さんのために

沢井製薬株式会社

証券コード 4555

THE TOP BRAND IN GENERICS

sawai TODAY

第 65 期 株 主 通 信

平成24年4月1日～平成25年3月31日



sawai

企業理念

なによりも患者さんのために

1

「真心をこめた医薬品を通じ、
人々の健やかな暮らしを実現する」
それがsawaiの使命です。

2

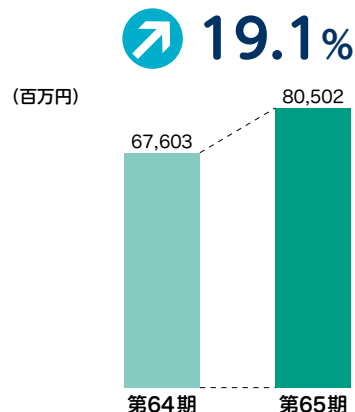
「創造性を追求し、革新と協調により
社会と共に成長する」
それがsawaiの挑戦です。

3

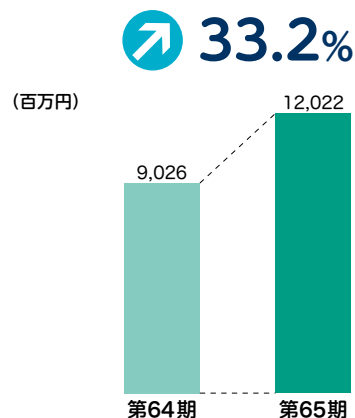
「お役に立ちたいという心を持ち、
なくてはならない存在になる」
それがsawaiの願いです。

第65期のハイライト

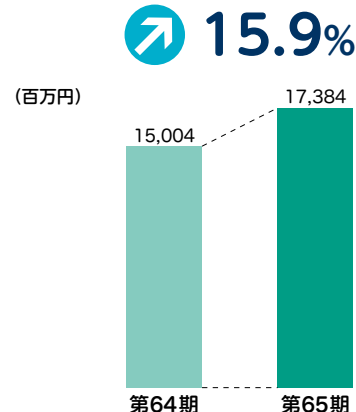
制度改正の追風を受け、
ジェネリック医薬品の市場が拡大し、
売上高は前期比19.1%増の
80,502百万円となりました。



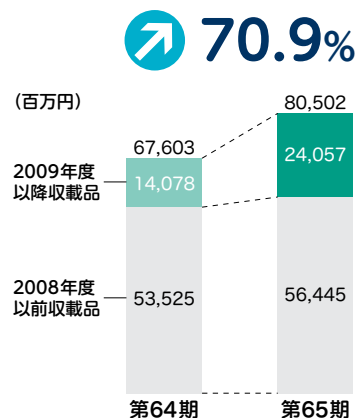
株式売却益も加わり、当期純利益は
前期比33.2%増の12,022百万円と
なりました。1株あたり当期純利益は
773.42円となりました。



薬価改定の影響で売上高原価率が若干
悪化しましたが、販売管理費のコントロール
に努めた結果、営業利益は過去最高を
更新し、17,384百万円となりました。



高脂血症治療薬アトルバスタチンを
中心に、2009年度以降収載品の
売上が前期比70.9%増となり、
売上高増に大きく寄与しました。



売上高、各利益ともに過去最高を更新し、営業利益、当期純利益とも期初計画を大きく上回りました。

株主の皆さまにはますますご清栄のこととお喜び申し上げますとともに、日頃からのご支援に厚く御礼申し上げます。

第65期(2013年3月期)は、5年前に政府が示した「ジェネリック医薬品の数量シェアを30%以上に」という政策の最終年度にあたり、2012年4月にはその達成に向けて様々なジェネリック医薬品使用促進策が打ち出されました。また、12月にはIGPA(国際ジェネリック医薬品連盟)の年次総会が日本で初めて開かれるなど、ジェネリック医薬品への注目が高まった年でもありました。その一方で、拡大が見込まれるジェネリック医薬品市場におけるシェア獲得を目指した大手外資系メーカー同士の業務提携や国内メーカー同士の合従連衡の動きに加え、各社が抗がん剤ジェネリックやバイオ後続品事業への取り組み強化の動きを見せるなど、競争環境は一層激化しました。

このような状況において、当社グループは、企業理念「なによりも患者さんのために」のもと、中期経営計画「M1 TRUST 2015」に沿った様々な施策に取り組みました。特に生産供給体制面につきましては、関東工場敷地内に建設を進めておりました新製剤工場が竣工、2013年3月に稼働を開始し、今後ますます拡大するジェネリック医薬品需要に対応できる体制を整えました。

これらの結果、当期の業績は、売上高80,502百万円(前期比19.1%増)、営業利益17,384百万円(同15.9%



代表取締役会長

澤井 弘行

代表取締役社長

澤井 光郎

増)、経常利益17,601百万円(同16.6%増)、当期純利益12,022百万円(同33.2%増)と、売上高、各利益とも過去最高を更新しました。

今後の見通しに関しましては、数量シェアを2018年3月末までに60%以上にするという目標を含む「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」を厚生労働省が2013年4月に公表しましたことから、ジェネリック医薬品のさらなる需要拡大が予想されます。当社はこのような市場拡大の動きに迅速に対応しつつ、中期経営計画「M1 TRUST 2015」を着実に実行し、さらなる業績向上に努めてまいります。

今後も、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

社長メッセージ



代表取締役社長
澤井 光郎

2013年3月期は、
中期経営計画「M1 TRUST 2015」に
基づいた諸施策を実行し、
着実な成果を上げました。

中期経営計画「M1 TRUST 2015」

当社グループは、2015年3月期に売上高1,040億円、営業利益210億円、当期純利益135億円、ROE16.7%の達成と、中長期ビジョンとして「2020年度までに売上高2,000億円達成」を目標とした中期経営計画「M1 TRUST 2015」を2012年5月に公表しました。この計画のための基本方針として、

- I. ジェネリック市場での圧倒的No1プレゼンスの確立
- II. 経営基盤の強化を通じた全社コストコントロールの徹底
- III. 新規領域への戦略的投資

を挙げ、グループ全体での取り組みを推進しています。

2013年3月期の取り組み

中期経営計画の初年度である2013年3月期は、重点施策の一つである「新製品の確実な上市とシェア獲得」として積極的に新製品の投入を図り、2012年6月に5成分15品目、同12月に9成分17品目の新製品を上市しました。なかでも骨粗鬆症治療薬「リセドロン酸ナトリウム錠」は

当社1社のみの発売となり、さらに中枢神経系用薬の「ゾルピデム酒石酸塩OD錠」と「クエチアピン錠」では先発品に無い剤形を発売するなど、当社の開発力を大いに発揮し、新製品の売上増につなげることができました。販売面では、比較的新しい製品を中心に設定した注力品目、その中でも2009年以降の収載品の売上が、卸や販社との連携強化による効果とも相まって大きく伸びました。特に2011年収載品は、高脂血症治療薬アトルバスタチンを中心に売上を伸ばし、前期比230%もの伸びとなりました。

医療機関別では、2012年4月に実施されたジェネリック医薬品の使用促進策を追い風に、「保険薬局市場における売上の更なる拡大」を図りました。政府により打ち出された様々な使用促進策は、複合的な効果があったと見ていますが、当社製品のうち、後発医薬品調剤体制加算の点数を算定しやすい品目の納入数量が比較的大きく増加したことから、特に後発医薬品調剤体制加算の効果が大きかったと推測しています。その結果、保険薬局への売上は採用金額ベースで対前年比32.2%増となり、全売上

高のうち68.8%を占めるに至りました。

また、生産面につきましては、「生産能力増強による高品質な製品の安定供給体制強化」の一環として、千葉県茂原市に建設を進めておりました関東工場新製剤工場が竣工し、2013年3月1日より稼働しました。同工場は、年間20億錠の生産能力を有し、当社全体では年間80億錠とジェネリック医薬品業界最大の生産能力を持つことになりました。この新工場は、追加投資を行うことで、将来的には40億錠まで生産能力を引き上げることができ、当社全体として年間100億錠の生産体制を持つこととなります。

また、多品種少量生産というジェネリック医薬品の特徴から、災害等へのリスクマネジメントも重要な課題と捉え、同工場では既存の生産拠点との製造機械の共通化等を行うことで、相互補完によるリスク分散体制の構築を図りました。

損益面においては、2012年4月の薬価改定による薬価引下げの影響を受け、売上原価率が上昇したものの、製造コストや販売管理費のコントロールに努めた結果、期初計画を上回る利益を達成することができました。

今後の取り組み

ジェネリック医薬品の数量シェア*を2018年3月末までに60%以上にするという新たな目標値を織り込んだ「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」が、2013年4月に厚生労働省から公表されました。しかしながら、ロードマップに沿った新たな促進策が実施されるのは来期以降であり、今期は政策の追い風が期待できません。売上高1,000億円達成に向けたステップの年である今期は、自助努力で成長する必要がある、

真の実力が試される年でもあります。当社が開発した付加価値のあるジェネリック医薬品の良さを、患者さんや医療関係者の皆さまにお伝えし、皆さまの心を動かすことで、売上の拡大を図り、計画達成に向けて邁進します。

今後も拡大が続くと見込まれるわが国のジェネリック医薬品市場へ参入が相次ぎ、合従連衡の動きも加速することで、ますます競争が厳しくなってくることが予想されますが、当社グループが打ち勝っていくために次の6点を最重要課題として取り組んでいきます。

- ① 安定供給の維持・確保
- ② 信頼性の向上
- ③ マーケティング機能の充実
- ④ 情報提供の充実
- ⑤ 高付加価値ジェネリック医薬品の開発と確実な上市
- ⑥ 企業体質・経営管理の強化

※新計算方式による数量シェアは、〔ジェネリック医薬品の数量〕／〔ジェネリック医薬品のある先発医薬品の数量〕＋〔ジェネリック医薬品の数量〕で算出される。新目標である60%は旧計算方式では34.3%に相当。

次期の予想と配当

2014年3月期は、売上高870億円、営業利益180億円、経常利益180億円、当期純利益116億円を計画しており、配当は前期比10円増の180円とさせていただく予定です。今後も企業価値の向上に取り組み、株主の皆さまに対する利益還元を経営の重要課題の一つとして位置づけ、安定的かつ継続的な配当を行ってまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後もより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

生産

関東工場新製剤工場が 3月1日より稼働！

千葉県茂原市の敷地内に建設を進めていた関東工場新製剤工場が竣工し、2013年3月1日より稼働しました。同工場は、最新製造エンジニアリング技術を導入した自動化の推進、人とモノの動線分離等により、高品質と高生産性を実現しており、日本における医薬品の製造・品質管理の基準である「GMP」に加え、FDA（アメリカ）やEU（欧州）基準にも対応しうる設計としました。また、省エネ対応の設備・製造機器の導入、敷地内の緑化等により、環境にやさしい工場となっています。



新製剤工場の概要

所在地	〒297-0017 千葉県茂原市東郷1900-1
事業内容	医療用医薬品（内服固形製剤）の製造
投資額	約100億円
敷地面積	87,478㎡
生産能力	年間20億錠（40億錠まで増強可能）

使用促進

厚生労働省「後発医薬品の さらなる使用促進のためのロードマップ」を策定

厚生労働省では、2013年3月末のジェネリック医薬品の数量シェア*30%以上を目標に、その普及を図ってきましたが、同省の推計では目標に到達していない状況です。このため2013年4月、同省は2018年3月末までに数量

シェア60%以上（旧数量シェアで34.3%に相当）とする新たな目標を掲げた「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」を策定、公表し、今後、行政・医療関係者・医薬品業界など国全体で取り組むことになります。

- 後発医薬品の数量シェア*を平成30年3月末までに60%以上にする。また、達成状況をモニタリングし、その結果や諸外国の動向を踏まえ、適宜見直す。
- 後発医薬品のさらなる使用促進のための取組についてもモニタリングを行い、その結果を踏まえ必要な促進策を適宜追加する。

※数量シェアについては、国際的な比較が容易にできることも踏まえ、後発医薬品に置き換えられる先発医薬品及び後発医薬品をベースとする。

主な取組内容

- ① 安定供給
- ② 品質に対する信頼性の確保
- ③ 情報提供の方策
- ④ 使用促進に係る環境整備
- ⑤ 医療保険制度上の事項
- ⑥ ロードマップの実施状況のモニタリング

2013年6月に、3成分9品目の新製品を収載

「エスエーワン®配合カプセル」は、胃がんの手術後に行われる補助化学療法で第一に選択される薬です。カプセル中に複数の有効成分が含まれるため、開発にあたっては、安定性を保ったまま溶出挙動や血中濃度推移をすべての有効成分について先発品と同等にすることに大変な

困難を伴いました。また、「シロスタゾールOD錠」とともに製造販売承認を得たメーカーは当社以外に1社しかなく、近年競合の激しいジェネリック医薬品業界において、当社の研究開発力を示すものとなりました。当社の成長を支える製品になることを期待しています。

▶主要新製品

薬効分類名	製品名	先発品名
代謝拮抗剤	エスエーワン®配合カプセルT20 ／カプセルT25	ティーエスワン®配合カプセルT20 ／カプセルT25
パーキンソン病治療剤	プラミベキソール塩酸塩錠0.125mg ／錠0.5mg「サワイ」	ビ・シフロール®錠0.125mg／錠0.5mg
抗血小板剤	シロスタゾールOD錠50mg ／OD錠100mg「サワイ」	プレタール®OD錠50mg／OD錠100mg
アレルギー性疾患治療剤	ロラタジンDS1%「サワイ」	クラリチン®ドライシロップ1%

閉経後乳癌治療剤「アナストロゾール錠」の開発

2012年12月に当社が発売したジェネリック医薬品初の閉経後乳がん治療剤「アナストロゾール錠1mg」は、乳がんの再発予防薬として5年間服用し続ける薬です。先発品は高価なうえ、長期にわたる服用が必要なため、ジェ

ネリック医薬品の要望が高かった製品です。試作検討段階においても封じ込めの環境下でエアフィルター付防護服を着用し開発に従事、上市に成功しました。



エアフィルター付防護服

連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表 (百万円)

	前連結会計年度 2012年3月31日	当連結会計年度 2013年3月31日
【資産の部】		
流動資産	80,508	79,435
現金及び預金	26,670	20,583
受取手形及び売掛金	25,486	26,593
たな卸資産	25,780	29,529
その他の流動資産	2,570	2,729
固定資産	42,891	48,407
有形固定資産	33,724	44,102
無形固定資産	2,013	1,956
投資その他の資産	7,153	2,348
資産合計	123,399	127,842
【負債の部】		
流動負債	26,931	30,105
固定負債	37,893	36,257
負債合計	64,824	66,363
【純資産の部】		
株主資本	57,779	61,089
資本金	11,900	11,959
資本剰余金	12,224	12,293
利益剰余金	33,657	43,308
自己株式	△ 3	△ 6,471
その他の包括利益累計額	715	334
新株予約権	70	45
少数株主持分	9	9
純資産合計	58,574	61,479
負債・純資産合計	123,399	127,842

連結損益計算書 (百万円)

	前連結会計年度 自 2011年 4月 1日 至 2012年 3月31日	当連結会計年度 自 2012年 4月 1日 至 2013年 3月31日
売上高	67,603	80,502
売上原価	34,410	42,510
売上総利益	33,192	37,991
販売費及び一般管理費	18,187	20,607
営業利益	15,004	17,384
営業外収益	462	497
営業外費用	370	280
経常利益	15,096	17,601
特別利益	—	853
特別損失	167	357
税金等調整前当期純利益	14,928	18,097
法人税等	5,902	6,075
少数株主損益調整前当期純利益	9,026	12,022
少数株主利益	0	0
当期純利益	9,026	12,022

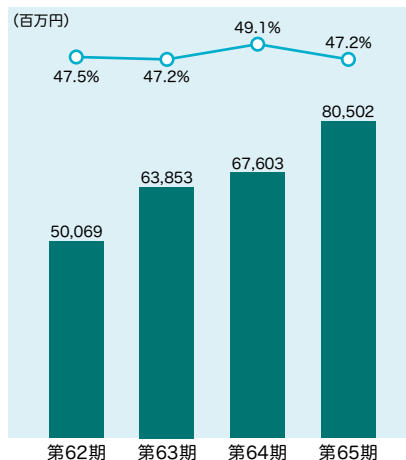
連結キャッシュ・フロー計算書 (百万円)

	前連結会計年度 自 2011年 4月 1日 至 2012年 3月31日	当連結会計年度 自 2012年 4月 1日 至 2013年 3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,813	12,255
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,370	△ 1,373
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,578	△ 10,969
現金及び現金同等物の増減額	864	△ 86
現金及び現金同等物の期首残高	19,805	20,670
現金及び現金同等物の期末残高	20,670	20,583

業績ハイライト

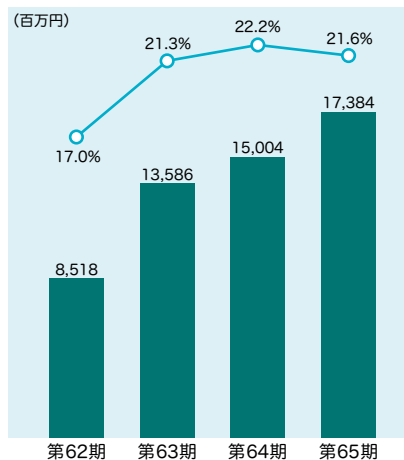
売上高／売上高総利益率

売上高 ■(通期) 売上高総利益率 ○



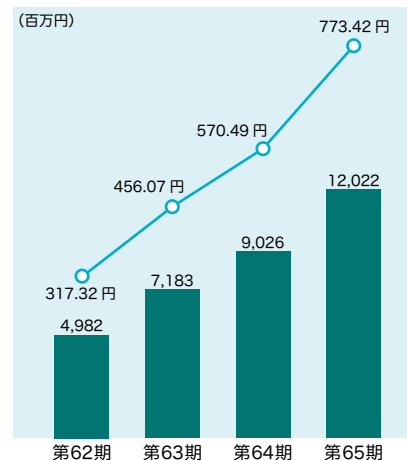
営業利益／営業利益率

営業利益 ■(通期) 営業利益率 ○



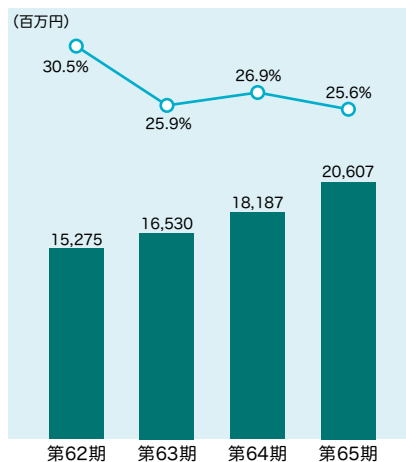
当期純利益／1株当たり純利益

当期純利益 ■ 1株当たり純利益 ○



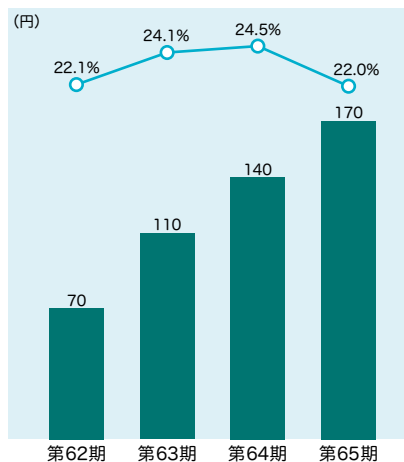
販売管理費／売上高販管費率

販売管理費 ■(通期) 売上高販管費率 ○



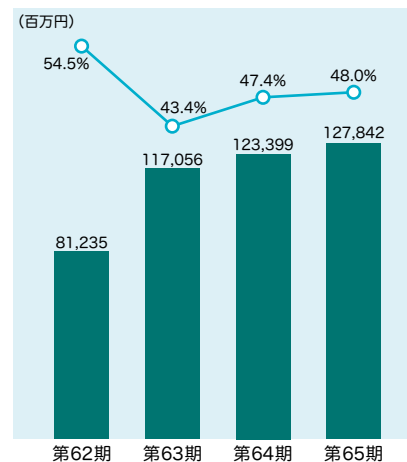
1株当たり配当／配当性向

1株当たり配当 ■(通期) 配当性向 ○



総資産／自己資本比率

総資産 ■ 自己資本比率 ○



会社概要

会社の概要（平成25年3月31日現在）

社 名	沢井製薬株式会社		
創 業	昭和4年4月1日		
設 立	昭和23年7月1日		
資 本 金	119億5,915万円		
従 業 員 数	1,050名(連結)		
事 業 内 容	医薬品の製造販売及び輸出入		
販 売 品 目	生活習慣病(高血圧症、脂質異常症、糖尿病等)治療剤、 抗がん剤など医療用医薬品約600品目及び一般用医薬品		
主要取引銀行	三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行		
ご 採 用 先	国立病院など全国約7,600病院(カバー率約88%)、 約33,000医院・診療所(約32%)、および 約52,000保険薬局(約90%)		
特約店及び 販売代理店	特 約 店	アルフレッサ(株)、(株) スズケン、東邦薬品(株)、 (株) メディセオほか広域卸約30社	
	販売代理店	西部沢井薬品(株)ほか販売会社約120社、海外1社	
提 携 会 社	旭化成ファーマ(株)、積水メディカル(株)、田辺三菱製薬(株)、 日本化薬(株)、バイエル薬品(株)、扶桑薬品工業(株)、 Meiji Seika ファルマ(株)ほか		

役員（平成25年6月25日現在）

代表取締役会長	澤井 弘行	取 締 役	澤井 健造
代表取締役社長	澤井 光郎	社 外 取 締 役	菅尾 英文
取 締 役	岩佐 孝	常 勤 監 査 役	松永 秀嗣
取 締 役	戸谷 治雅	監 査 役	澤井 武清
取 締 役	木村 圭一	社 外 監 査 役	高橋 孝志
取 締 役	横浜 重晴	社 外 監 査 役	小林 俊明
取 締 役	小玉 稔		

本社・事業所・グループ会社（平成25年4月1日現在）

本社・研究所	大阪市淀川区宮原5丁目2-30
支 店	札幌、仙台、北関東、東京第一、東京第二、名古屋、大阪、広島、福岡
営 業 所	長野、東京西、横浜、東京東、静岡、京都、神戸、北陸、高松、 岡山、熊本
工場・研究所	関東工場、大阪工場、三田工場、九州工場、第二九州工場、 化研生薬八郷工場、製剤技術センター
子 会 社	メディサ新薬株式会社、化研生薬株式会社、ケーエム合同会社

株主メモ

事 業 年 度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定 時 株 主 総 会	毎年6月
単 元 株 式 数	100株
配当金受領株主確定日	毎年3月31日および中間配当を行うときは毎年9月30日
基 準 日	定時株主総会については3月31日といたします。 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
株 主 名 簿 管 理 人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所	〒540-8639 大阪府中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

郵 便 物 送 付 先 (電 話 照 会 先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-782-031 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支 店で行っております。
	電子公告としております。ただし、事故やその他止むを得 ない事由によって電子公告による公告をすることができ ない場合は、日本経済新聞に掲載します。 ※ 公告掲載の当社ホームページアドレス http://www.sawai.co.jp/ir/index.html
公 告 方 法	

「配当金計算書」について

配当金支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告をなされる際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。(株式数比例配分方式を選択されている株主様は除きます。)

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。

*確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。



株式情報 (平成25年3月31日現在)

株式状況

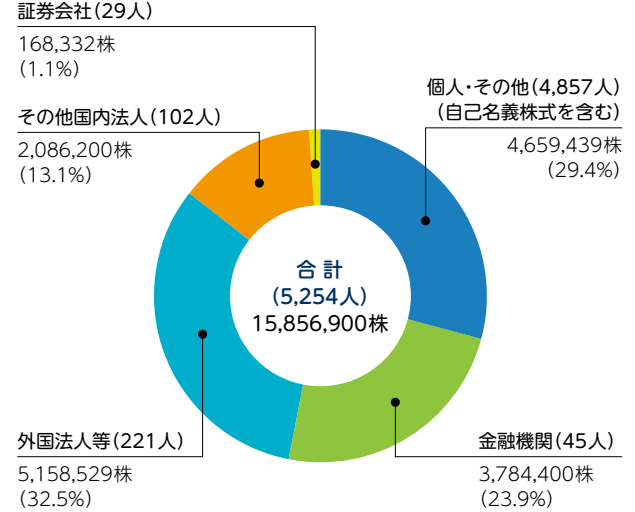
発行可能株式の総数	38,800,000株
発行済株式の総数	15,856,900株
1単元の株式の数	100株
株主数	5,254名

大株主

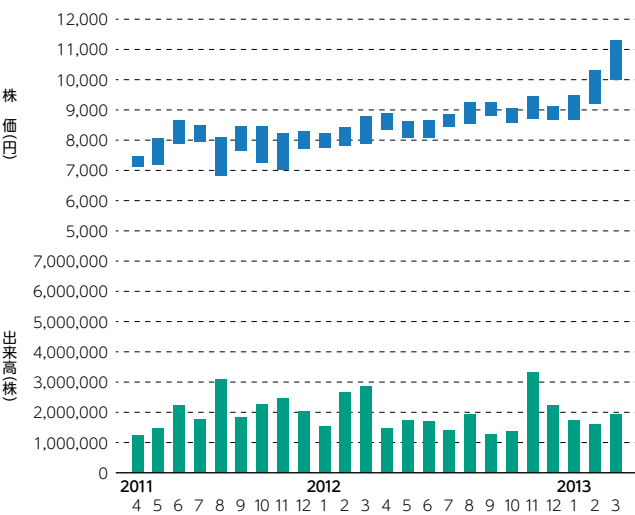
株主名	持株数
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	924,900株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	591,600株
メロン バンク エービーエヌ アムロ グローバル カストディ エヌバイ	543,201株
サワケン株式会社	497,000株
澤井 光郎	474,100株
澤井 健造	474,000株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	397,000株
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	348,100株
住友商事株式会社	316,600株
澤井 弘行	315,700株

(注)当社は自己株式649,512株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。

株式分布状況



株価(高値・安値)および出来高の推移



コミュニケーション広場



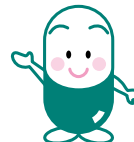
沢井製薬の1社提供番組、 立川らく朝氏が笑いと健康を届ける 「Dr. らく朝 笑いの診察室」放映中

2012年10月より、当社初の1社提供番組「Dr. らく朝 笑いの診察室」をBS日テレで放映しています。同番組は、医師で落語家というユニークな経歴を持つ立川らく朝氏を起用し、健康にまつわることを通して、楽しく健康について学べる情報番組です。糖尿病×覆水盆に返らず、動脈硬化×塵も積もれば山となる、など楽しく役立つテーマが盛りだくさんです。同番組を通じて、多くの皆さまに、疾病に対する知識を深め、健康に対する意識やジェネリック医薬品への理解を高めていただきたいと思います。過去の放映内容は、当社が運営する健康情報サイト「健康かけいば」にてご覧いただくことができます。



その他、日本テレビ系「News ZERO」に加え、2013年4月よりTBS系「報道特集」、テレビ朝日系「日曜エンターテインメント」にも番組提供を行っています。

当社は健康企業として一般の皆さまに、ジェネリック医薬品や疾病について正しい理解を深めていただく場として様々な市民公開講座を全国で協賛しています。



● 女性のための乳がんセミナー ●

(2012年11月17日 大阪府：産経新聞社主催)

「ミセス」などのファッション誌で活躍する女性モデルで、自身も乳がん体験者であるMAIKO氏をお招きし、乳がんを通じて学んだこと、モデルという職種との向き合い方、そして母としての想いなどをお話しいただきました。また、大阪府立成人病センターの玉木康博氏による最新の乳がん治療や今後の展望についての講演、パネルディスカッションが開催されました。

● 家族が認知症といわれたら ●

～変わるアルツハイマー病の治療とジェネリック医薬品～

(2013年3月24日 宮城県仙台市：河北新報社主催)

患者数が250万人に達すると言われる認知症。そのなかで最も多いと言われているアルツハイマー病の治療薬に、一昨年初めてジェネリック医薬品が登場しました。同講座では、実際に医療現場で治療に携わっている方々より、アルツハイマー病とジェネリック医薬品の現状や今後について語っていただきました。

沢井製薬株式会社

大阪市淀川区宮原5丁目2-30 〒532-0003

TEL: 06-6105-5711 FAX: 06-6394-7311

URL: <http://www.sawai.co.jp>